

日時<場所>	2023年1月10日(火) 16:00~16:30 <リモート開催 (Teams) >			
出席者 (計6名)	議長	神田 由美	従業員代表委員	木村 由紀子
	産業医	平良 素生	従業員代表推薦委員	出口 玲子
	衛生管理者	藤田 恵子	従業員代表推薦委員	平柳 智子

1. 労働災害・時間外労働・休暇取得状況報告（2022年12月度）

(1) 労働災害・交通災害状況

	労働災害(名)		交通災害(名)		
	休業	不休業	加害	自損	被害
4月	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0
10月	0	1	0	0	0
11月	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	0

(2) 年次有給休暇取得と法定外労働時間（8時間/日、45時間/月）

	対象人数 (名)	有給休暇取得 平均日数(日)	法定外労働 平均時間(H)	8時間超 人数(名)	45時間超 人数(名)
4月	60	1.0	4.2	0	0
5月	61	1.7	14.0	0	0
6月	63	0.5	12.3	0	0
7月	63	0.6	6.4	0	0
8月	63	2.9	17.1	0	0
9月	64	1.0	14.1	0	1
10月	64	0.6	7.4	0	0
11月	64	0.8	12.0	0	0
12月	67	1.4	12.6	0	0
平均	63	1.2	11.1	0	1

2. 冬季の転倒注意について

冬季は、積雪や凍結等によって、転倒などの労働災害が発生しやすくなりますが、それは積雪量の多い地域に限りません。東京都心や普段積雪がない地域では、積雪に対する準備がないために、労働災害が発生してしまうことも多くあります。そこで、この機会に、冬季の労働災害、とくに「転倒」への備えについて振り返ってみましょう。

転倒災害の件数は、労働災害でも最も多く、冬季に発生しやすいことが報告されています。

2011年～2012年の転倒要因を分析した調査では、冬季の転倒件数が最も多く、原因は氷による転倒が多いことが明らかとなっています。積雪時、降雪時だけではなく、気温が低下した場合の凍結にも転倒のリスクが潜んでいます。

職場での対策と従業員一人ひとりの対策の両方が重要となります。

<職場での対策>

日頃から、4S（整理・整頓・清掃・清潔）がなされているか、転倒リスクがある箇所がないか、転倒リスクが高い場所には注意標識を掲示するほか、何等かの対策が取られているかなどを確認しましょう。

また、建物内だけでなく、建物入口や駐車場などもこの機会にチェックしてください。職場環境の対策とともに、従業員が安全に出勤・帰宅ができるよう、積雪や降雪が予測される場合には、勤務時間や外出などを柔軟に対応するなどの仕組みづくりも転倒災害の防止につながります。

<従業員一人ひとりの対策>

●雪道や凍結路では転倒防止の歩き方に留意しましょう！

- ・凍結した路面はできるだけ避ける
- ・雪道では、足の裏全体で雪面を踏みつけるようにして小幅で歩く
- ・両手を開けておくなど、すぐに受け身が取れる状態を作っておく
- ・雪上でも滑りにくいタイプの靴を履くようにする（ゴム底の靴など）

●運動習慣をつけて転倒しにくい体づくりを！

- ・転倒災害は高齢になるほど発生率が上昇となる。この原因には加齢による身体強度や運動機能の低下が関連している。
（60代後半の場合、男性は20代の約4倍、女性は20代の約16倍）

- ・海外の研究では、スポーツ活動をしていない労働者は転倒リスクが高まることが明らかとなっている。

⇒運動機能の維持が転倒の予防につながる

3. 他場所事故・災害情報について（三菱ケミカル社）

【発生件数】（2022年12月）重大労災1件、休業労災1件、軽微労災2件

【労災内容】

- （1）ラミネーターのローラー掃除中に巻き込まれ（重大労災）
- （2）フォークリフト下車時に足を骨折（休業労災）

4. 来月度開催予定日時：2023年2月14日（火）16時～17時 リモート開催（Teams）